

1年生学年だよ

令和5(2023)年4月12日

第4号

吹田市立第二中学校第一学年

班活動とは。

1. なぜ班活動をするのか

○班活動・班長会議について

学校は共同生活の場であり、掃除・週直の仕事や、道徳、特活や普通の授業などで、班単位で行動することが多くあります。班単位で行動することで協力し合って仕事をしたり、学習の教え合いをする力をつけていくことはとても大切です。また、班やクラス単位での経験を基盤にして、委員会や行事ではさらに力を試す大きな舞台を設定していきます。

“みんなで役割分担をして、良いクラス・学年を創り上げていきましょう”

○班活動をする理由

- ①自主的に行動し、みんなが気持ちよく生活できる環境を作る
- ②自ら進んで役割を担うことで、自分のできることが増え、周囲を手助けできたりする
- ③与えられた役割をきちんとこなすことで責任感が生まれる

人間社会で生きていく以上、助け合い、支え合いの気持ちはお互いに気持ちよく過ごすための大切なキーワードです。

また、自分たちでできることが増えてくれば、先生たちは、「あんな経験をさせてあげたい」「こんな体験はどうだろう?」と、たくさんの感動的な体験や経験を生徒のみなさんに用意することもできるのです。

自分さえよければ、ではなく周りの人のことを考えて行動できるようになっていきましょう。

○班活動の決まり

- ①班は班長会議によって決まり、5人×8班とする。
- ②各教科の授業や、道徳、特活、総合的な学習の中で、班で学習する場合もある。
- ③班は、週直を輪番で担当する。週直になったら1人1つの仕事をする。
- ④班は、掃除当番を担当する。
- ⑤班は次の班長会議まで変わりません。

2. 班の仕事

それぞれの係が責任を持って自分の仕事をしよう。

「係じゃないからしない」「自分は知らない」というのでは集団生活はうまく回りません。また係の人が来ていないことに気づいたら「やっつけよ」ではなく、「やっといたで」と言える、そんなあったかい言葉や行動をかけられるような集団になっていきましょう。

① 週直（日直）

班長

- ・司会…終礼時の司会を大きな声で元気よく行います。
- ・連絡…翌日の連絡事項が職員室前廊下の1年生入口付近に書いてあるので、それを連絡ボードに転記します。転記した連絡ボードは教室前方の黒板にはります。

黒板消し

- ・毎時間黒板をキレイに消します。帰りも消すのを忘れずに。休み時間の間に、必ず黒板をきれいにしておこう。

学級日誌

- ・学級日誌を毎日丁寧に書きます。遅刻や欠席もきちんと書きましょう。

とじまり

- ・教室移動時の消灯・戸締まりと鍵の管理をします。

配布

- ・配布物を職員室前のBOXまで取りに行き、教室で配ります。配布物が多い場合もあるので手が空いている人は積極的にヘルプしましょう。

②掃除担当

班ごとに教室や特別割り当て区域を担当します。遅刻やサボりがないように班員同士で積極的に声をかけましょう！

3. 班は班長会議で決めます

座席についてはくじ引き&班長会議で決めます。手順は以下の通りです。

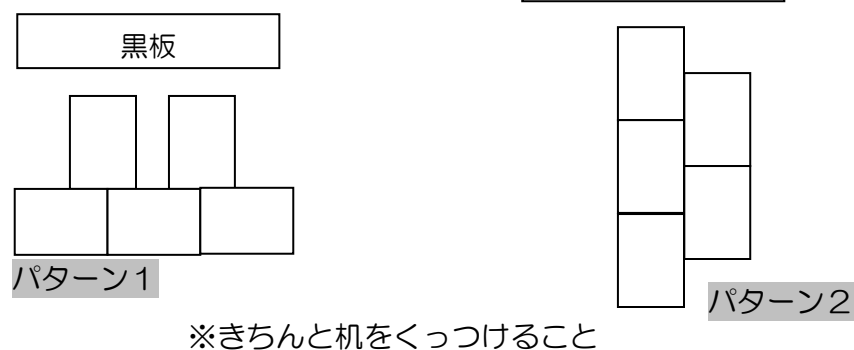
- (1) 班長を決めます。立候補で8人。
- (2) 新しい班(=座席)を決める前に、たとえば①、②のような課題や配慮すべきことについて班長を中心に確認します。
 - ①自分の力で身の回りのことをきちんとやるのが難しい人
 - ②近くの席だとしゃべったり遊んだりしてしまう人
- (3) くじ引きの結果をもとにして、(2)であげたような課題がクリアされるように、班長会議にて班を決定します。班長会議には代議員、班長、担任が参加します。
班長会議で話しあった内容は決して外ではしゃべらないというルールですので絶対に守ってください。

4. 終礼の仕方

- (1) 週直や班長を中心にみんなが声かけをして、全員が①着席、②静か、③机の上はセルフノートのみ、という状態を作ります。(かばんは床におろす)
- (2) 終礼を始めます
- (3) 教科係からの連絡(時間割・宿題・持ち物等)
- (4) 係や委員会からの連絡
- (5) 本日の配布物確認(連絡袋に入れていく)
- (6) 一日を振り返って
- (7) セルフノートのチェック
- (8) 先生からのお話

5. 班活動の行い方(※例外もあります。まずは授業者の指示に従うこと。)

班隊形の作り方



班の形で課題に取り組むときは

- ① まずは、自分で考えてみる
- ② 自分一人で考えてわからないときには班の人に聴く
- ③ 聴かれた人は自分のわかるところでいいので、相手がわかるまで一緒に考える
(※絶対に答えを言わない)
- ④ 聴かれるまでは教えない

班の形で話し合いをするとき

- ① 司会を決める
(いろいろな人が経験できるようにする)
- ② 自分の考えを聴いてもらう
- ③ 人の考えを聴く
- ④ 他人の考えのよいところを自分に取り入れる
- ⑤ 疑問点を質問する

